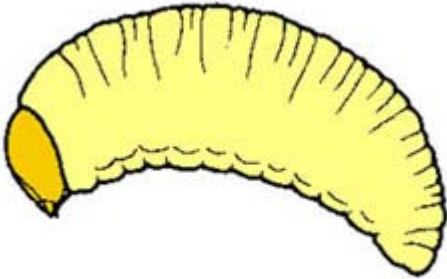


キンケクチフトゾウムシ

草本や樹木の根を食べるイモムシ（幼虫）。鉢植の観賞植物にもつく。幼虫は淡い黄色，脚がない。最大長10mm。樹木ではイチイ，ツツジ類，アジサイ類などに発生が多いようである。成虫は様々な植物の葉を食べる。中央ヨーロッパ原産とされ，北海道では1993年に侵入が確認された。



1. ゾウムシ幼虫略図。

【学名】 *Otiorynchus sulcatus*

【分類】 甲虫目 (Coleoptera) , ゾウムシ科 (Curculinidae)

【分布】 世界各地。

【特徴】

成虫は体長8~13mm。黒いゾウムシで，背中に黄色の斑点（黄色の短毛のかたまり）がある。

【生態】

寄主：木本（イチイ，レンゲツツジ，アジサイ，オオヤマザクラ），草本（シクラメン，プリムラ，パンジー，イチゴ，サルビアなど）。

年1世代。幼虫越冬，成虫で越冬する個体もある。5月上旬~6月上旬に蛹になり，成虫は5月中旬~6月下旬に羽化する。成虫は7~10月にかけて産卵する。越冬成虫は5月中旬~6月上旬に産卵する。卵は土面にばらまくように産み落とされるようである。産雌単為生殖を行う。

天敵として糸状菌 *Beauveria bassiana* があり，幼虫の死亡の主要因と考えられている。

【文献】

1996. 奥山七郎，岩崎暁生，小野寺鶴将。北海道におけるキンケクチフトゾウムシの発生と生態的知見。北農，63：161-174。

キンケクチプトゾウムシ zomusi/kinkeku/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/3/8.

zu-yochu.JPG

「図1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.